

人とつながり、地域とよりよくかかわりながら 自己の生き方を考える子どもの育成

愛媛大学教育学部附属小学校 吉岡 舞

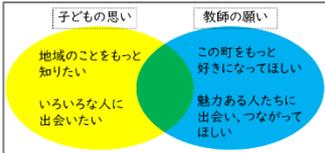
11 住み続けられる
まちづくりを



①研究の背景

本校には校区がなく、子どもたちは松山市全域の様々な地域から学校に通ってきている。そのため、附属小学校のある地域とのつながりや、この地域が「自分の町」であるという意識が薄く、地域やそこにかかわる人たちのことをよく知らない子どもが多い。

「学校に通うためだけでなく、さらに地域や人とかわり、この町をもっと好きになってほしい、魅力ある人たちに出会い、つながってほしい」という願いから、本研究のテーマを設定した。



②ねらい

子どもの思いから地域の人たちと出会い、かかわりを深めたりつながりを構築したりすることを通して、自分も地域の一員であることに気づき、これからの地域づくり、地域とのよりよいかかわり等、自分の生き方に生かそうとする態度を育てる。

働かせる ESD の視点
相互性…地域とのつながり
連携性…まちづくり、参画

育てたい ESD の資質・能力
つながりを尊重する態度
進んで参加する態度

③方法

- (1)子どもの思いを基にした単元構想
- (2)人や地域と繰り返しかかわるための手立て
- (3)ICT機器を活用した評価の工夫

④結果

(1)子どもの思いを基にした単元構想

社会科で道後商店街を見学

↓
大阪からの修学旅行生に出会う

↓
子どもたちは驚きと喜び
「なぜ道後を選んだのか?」

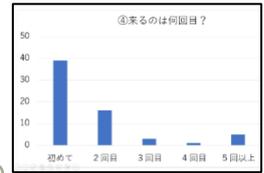
↓
再度道後に出掛け、観光客約80人に質問

道後に来るのは初めての人が多い
リピーターは少ない

↓
「1回来たらもう来ない人が多い」
「なんだか悲しい」

↓
「自分たちが道後のよさをもっと伝えたい!」

↓
新たな課題【道後のよさをもっと伝えよう】



「道後は人気の観光地」
「何度も来てくれている」と
思っていた子どものイメージと
現状のずれ、切実感→
探究したいという思いUP

(2)人や地域と繰り返しかかわるための手立て

道後の町の魅力を伝えるために…

地域に出向いて取材する



制作物をGTに見てもらおう



観光客に伝える



地域やGTとかかわる
場を計7回設定

たくさんの人とかかわり
ながら学習を進める

道後の町への
愛着
魅力再発見

道後は、自分たちにとってあ
たりまえだと思、ていただけと道
後、本当にすごいんだというこ
とが知れた

(3)ICT機器を活用した評価の工夫

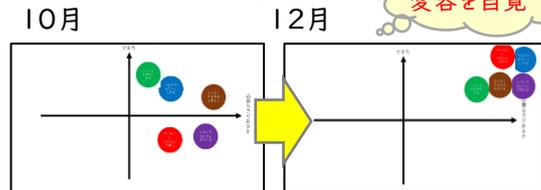
観光客へのアンケートによる他者評価



全員「また来たい」
よさが伝わった!
充実感 達成感
人とつながるよさ

一度でいいのになくなくてよか
たのです。これからE道後のこ
とをある程度は知りました。いま
よさなことがわかりました。

ポジションシートでの自己評価



学び、自身の成長、
変容を自覚

⑤考察

子どもたちが地域やそこにかかわる人とのつながりを構築し、深めていくことで、地域や人を好きになるとともに、自分も地域の一員であるという自覚が高まった。また、休日に進んで地域に出掛けて楽しんだり、家族や知人を案内して魅力を伝えたりと、生活の中で自らよりよく地域とかかわろうとする態度が育った。

「月ルトやば、ちゃんを人ゴハ
のあいが深かった

道後たい好好き

からくり時計をたくさん知れた
道後のすこさかもらためて分か
った

道後の面白さ温かさが分かった

からくり時計のことかたくさん
知れた。
道後が自分の第2の家だと思
うべき。

道後の町が好きになった。
おぼちゃん団子もたくさん食
べるようになった。